

2019年7月4日掲載 カーゴニュース

DTホールディングス／決算

物流は価格改定効果で増収増益

特積みは輸送量増加もコスト増が圧迫

ディー・ディー・ホールディングス（本社・山形県山形市、武藤幸規社長）の2019年3

月期の連結業績は売上高が前期比4・4%増の1133億5600万円、営業利益が76・4%増の28億3700万円、経常利益が78・5%増の28億8500万円、当期純利益が3倍超の2

0万円、当期純利益が3倍超の216・6%増の12億300

0万円、営業利益が76・4%増の28億3700万円、経常利益が78・5%増の28億8500万円、当期純利益が3倍超の216・6%増の12億300

0万円の増収増益となった。特積み事業では輸送量の増加や運賃改定の効果により増収したものの、軽油価格が通年で予測を大きく上回ったほか、備車費などの削減に大きな進展が見られず、収支を圧迫した。ロジステイクス事業は大口顧客の料金改定により売上高は増加し、収支も改善された。

物流関連事業（第一貨物）の業績は、売上高が5・1%増の749億2400万円、経常利益が138・1%増の20億7600万円、当期純利益が3倍超の216・6%増の12億300

一方、自動車販売事業（太平興業）の業績は、売上高が1・7%増の300億1700万円、経常利益が16・7%増の2億8000万円、当期純利益が

3倍の2億300万円となった。車両販売部門では売上高は増加したものの利益率の悪化で利益は減少。整備部門は入庫台

数の増加や単価改善により大幅な増益となった。

